

大人になるとは、どういうことなんだろうと時々考えます。我が身を振り返って、いつ大人になったと言えるだろうとも考えます。

立派な大人になったとは言えないにしても、まだ子どもであると言い張るには年を取りすぎました。

考えていくと、私自身が大人になったと感じられるのは、私たちのホームにやってくる入居者と接する場面、大人としての役割を演じる場面くらいかもしれません。

夜中に熱を出した入居者に付き添って夜間病院に付き添うとき、フラストレーションが爆発した入居者から不満不平をぶつけられるとき、レクリエーションのため私が運転する車に入居者を乗せて出かけるとき、高校の卒業式に立ち会うとき、様々な喜怒哀楽の場面に立ち会う度、私が子どもだったころを思い起こします。

私は、私を育ててくれた大人がしてくれたように、それらしく大人の役割を演じます。

うまく役割をこなせているかは甚だ自信がないですが、いつか入居者が大人の役割を演じなければならなくなったとき、ああ、あの人もこんな気持ちだったのかな、あんなことやってくれたな、と思い起こしてくれそうです。私たちのささやかな一つ一つの支援がそうあるように、願いを込めて次の一年を過ごしたいと思います。

理事長：酒井 将平



♪ 2022年度 子どもシェルター&自立援助ホームの状況 ♪

子どもシェルターにはお問合せを頂きましたが、入所にまではなりません。

道北地方でシェルターの役割は必要であると思われますので、今後も広報に努めていきたいと思っております。利用したいと思う子どもにシェルターの情報が届くように関係機関への周知を進めていきます。

自立援助ホームでは、ホームから旅立つ子どもが3名いましたが、新たに入居してきた子どもはいませんでした。

旅立った子どもの一人は、全日制高校から定時制高校に転学し、正職員の仕事を心得て一人暮らしを始めました。大家さんにごみの出し方を一緒にやってもらうという助けを借りながら地域での生活を続けています。地域の方の助けが本当にありがたいことだと感謝しています。

もう一人は全日制高校から定時制に転学し、単位取得が危ぶまれましたが、何とか単位をクリアして卒業することができました。卒業までに就職は決まらなかったのですが、高校卒業後は実家に帰って就職活動をするようになりました。

もう一人も実家に帰りました。住み慣れた土地や友人が懐かしく、そちらの方が安心して生活ができるということで帰るようになりました。こちらでの生活で、ある程度の問題のめどがついたこともありました。

旅立った子どもたちは、ここでの生活で感じたこと、考えたことをこれからの生活に活かしてもらいたいと願っています。

～新理事の就任ご挨拶～

～令和5年度から新しく2名の方を理事としてお迎えしました。今後ともよろしく願いいたします～

この度、ビ・リーヴ理事に就任いたしました鷹栖町生まれで古稀を迎えた西中 裕一(にしなか ゆういち)と申します。子どもセンタービ・リーヴには、2018年の法人発足以前より関わらせていただいていたのですが、名ばかりの会員で深く関わる機会は有りませんでした。そうした中、理事就任のお話をいただき、これまでの経験や社会福祉士としての知見が活かされるならと理事就任を受けさせていただくこととしました。

現在は、障害分野の認定社会福祉士として独立型社会福祉士事務所の代表を務めており、障がい者の相談支援専門員や専門職後見を担わせていただいています。独立型社会福祉士と言うのは、地域を基盤に独立した立場でソーシャルワークを実践する者を指します。現在は、独立型社会福祉士ですが、これまで児童養護施設の児童指導員を皮切りに障害者施設等で35年勤務し、2012年に独立型社会福祉士として事務所を構え現在に至っています。

趣味は、学生時代から続けている人形劇で現在も人形劇団として公演活動を続けており、10年程前からは句会に所属し俳句を、最近では川柳の会にも参加させていただき地域の皆様と楽しんでます。

現在の職業の出発点が児童養護でしたが、あまり褒められた仕事はしてこなかったなあと振り返ってもあります。人生には無駄が無いとも言われます、自身が歩んできた失敗や経験、専門職としての知見が活かされれば幸いです。今後とも、宜しく願いします。

(たかす社会福祉士事務所ばとん 代表 西中 裕一)



私は、旭川の神居でピース コミュニティ チャーチというキリスト教のプロテスタントの教会の牧師をしています定池 広季(さだいけ ひろき)と申します。今年から、ビ・リーヴの理事をさせていただくことになりました。よろしく願いいたします。

私は小学校一年生の時から10代後半まで、「生きる意味」「生まれてきたことの意味」について、悩みながら生きていました。そして、自分にとっての答えを見つけたときに、同じような悩みの中にある若者のために何かできたらと思い、たどりついたのが牧師でした。牧師が普段何をしているかを、知らない方がほとんどだと思いますが、牧師のしていること、またしなければならないことのうちの一つは、人の話をきくことにあります。

いつも誰かの話をきき、心をきき、慰めと励ましと希望になれたらと思っています。

困っている子どもがいる。悩んでいる子どもがいる。そのことを伺い、私も何かお役に立てないだろうかと思っています。もう一度よろしく願いいたします。

(定池 広季)



事業報告・収支決算等について

1. 令和4年（2022）度事業報告について

令和4年度は、新規の入居者はなく、自立援助ホームを巣立っていく子どもが3人いました。高校を卒業して一人暮らしをする子ども、高校を卒業して実家に引き取られる子ども、また、住む場所を決めて一人暮らしを始める子どもたちです。それぞれに困難はあると思いますが、何とか社会の中で自分が生きていく場所を探してもらいたいと思っています。一人暮らしを始めた子には、寄付を頂いた中から「応援金」を作り、一人暮らしを始めるにあたって必要な物を買ってそろえることに使わせてもらっています。

引き続き、児童自立援助ホーム（シェルター併設）事業を継続し、関係機関と連携を強化していきたいと考えています。

＜令和4年度実施した事業＞

①児童自立生活援助事業（シェルター併設）

児童相談所を通しての入所児童 4名
 子どもシェルター利用児童 0名
 一時保護委託入所児童 0名

②入所児童の学習及び交流事業

- (1)お誕生会
- (2)いちご狩り（東旭川）
- (3)スポッチャ
- (4)ボーリング大会
- (5)花火大会鑑賞
- (6)ハロウィンパーティ
- (7)クリスマス会
- (8)節分豆まき
- (9)図書館 図書貸し出し
- (10)ひな祭り
- (11)送別会

③学習会の開催

(1)12月11日、令和5年1月21日 スタッフ研修
 ＊講師：NPO法人ノーマライゼーションサポートセンター こころりんく東川
 副理事長 大友 愛美氏

④子どもに関する相談件数 13件

⑤子どもシェルターネットワーク形成及び視察・研修

- (1)全国自立援助ホーム協議会北海道ブロック会議
1名参加
- (2)子どもシェルター全国ネットワーク会議
ZOOMで実施 1名参加
- (3)全国自立援助ホーム協議会ホーム長研修会・総会
ホーム長 1名参加
- (4)全国自立援助ホーム協議会全国大会（鳥取）
1名現地、1名ZOOM 計2名参加

⑥通信の発行 第4号（発行9月）

⑦ホームページの管理・更新

2. 令和4年（2022）度収支決算について

2022年度 会計収支決算書

(経常収益)		特定非営利活動法人 子どもセンタービ・リヴ		
科目	22年度予算額	決算額	差異	摘要
1.受取会費				
入会金	0	0	0	
正会員受取会費	36,000	39,000	3,000	
賛助会員受取会費	16,000	23,000	7,000	
2.受取寄付金	2,000,000	2,074,800	74,800	
3.受取助成金	0	100,000	100,000	
4.受取補助金	0	306,000	306,000	
5.措置費	16,440,000	27,324,129	10,884,129	
事業収益1	1,080,000	861,000	-219,000	
参加費収益	0	0	0	
6.その他収益				
受取利息	0	213	213	
雑収益	0	0	0	
収入合計	19,572,000	30,728,142	11,156,142	

(経常費用)				
科目	22年度予算額	決算額	差異	摘要
1.事業費				
(人件費)				
給料手当	10,493,000	9,530,242	-962,758	
臨時雇い賃金	0	0	0	
法定福利費	1,170,400	456,420	-713,980	
通勤費	450,000	243,545	-206,455	
福利厚生費	20,000	3,544	16,456	
人件費計	12,133,400	10,233,751	-1,899,649	
(その他経費)				
業務委託費	60,000	125,930	65,930	草取り、除雪等
食材費	1,320,000	976,130	-343,870	
諸謝金	100,000	71,822	-28,178	
印刷製本費	30,000	17,003	-12,997	
会議費	20,000	14,734	-5,266	
育成費	700,000	538,059	-161,941	入居者関連費
旅費交通費	500,000	223,076	-276,924	
車両費	0	0	0	
通信運搬費	400,000	143,789	-256,211	
消耗品費	800,000	1,017,926	217,926	
備品消耗品費	300,000	0	-300,000	
修繕費	200,000	0	-200,000	
水道光熱費	980,000	805,697	-174,303	
地代・家賃	1,440,000	1,440,000	0	
賃借料	20,000	18,370	-1,630	会議会場費他
保険料	80,000	45,312	-34,688	
諸会費	70,000	44,700	-25,300	
租税公課	1,000	0	-1,000	
教養娯楽費	330,000	120,425	-209,575	入居者関連費
研修費	50,000	16,000	-34,000	
支払手数料	12,000	9,473	-2,527	
診察費	0	21,370	21,370	
雑費	0	0	0	
その他経費計	7,413,000	5,649,816	-1,763,184	
事業費計	19,546,400	15,883,567	-3,662,833	
2.管理費				
(その他経費)				
会議費	7,600	2,402	-5,198	
旅費交通費	5,000	0	-5,000	
支払手数料	0	0	0	
印刷製本費	8,000	0	-8,000	
賃借料	5,000	520	-4,480	
通信運搬費	0	0	0	
管理費計	25,600	2,922	-22,678	
支出合計	19,572,000	15,886,489	-3,685,511	

***** 子どもシェルター、自立援助ホーム事業

複数の職員で座談会形式でこれまでを振り返ってみました。

これまでの入・退居 実績

【これまでの入居者数】

- * 子どもシェルター利用 1名
- * 自立援助ホーム利用 12名
- * 一時保護委託 3名

【退居内訳】

- * 子どもシェルター
 - ・別の地域の自立援助ホーム入居 1名
- * 自立援助ホーム
 - ・児相の一時保護・・・ 3名
 - ・実家引き取り・・・ 3名
 - ・他の施設・・・ 1名
 - ・グループホーム・・・ 2名
 - ・一人暮らし・・・ 2名

スタートは嵐の中 (2018~2019年)

何か所かのシェルターや自立援助ホームを視察に行き、お話を聞き、本を読み、みんなで話し合って事業をスタートしましたが、実際に子どもを受け入れると難題が次々と噴出してきました。「これ、どうする?」、「こんな時にどうしたらいい?」ということが毎日のように起こり、こちらがもたもたしていると、子どもたちから厳しい指摘や要望が出てきます。

大きな支援の目標はあっても、それをどう具体的に表していくか、支援をしていくかということは簡単にはいきませんでした。悩み、もがきながら手探りで支援の方法を考えていったという感じです。

職員の体制が整わないことも腰を落ち着いた支援を難しくしていました。また、児童福祉、障害福祉など他分野での経験があっても、それがすべて活かされるわけではない、この事業の難しさも肌で強く感じました。

体制をたてなおし、複数名の子どもを受け入れる(2020年)

~子どもたち集団の変化や生活への影響を見守ることに注意を払う

月子:リストカットや多量服薬をする子がいた時の宿直は、怖いという気持ちもあったわ。包丁を事務室にしまっただけで寝ていたもの。

星子:みんなで対応策を考えるケース検討会をしたよね。臨床心理士に参加してもらって、あれこれ考え、みんなで対応を共有したね。

花子:子どもに「あなただけに話す。」と言われて頼られたような気になるけど、実は子どもに振り回されることになったり、反対にこちらが子どもをコントロールしようとしたり、恐ろしいことが起こってしまうことを実感したよね。気持ちの距離って難しいわ。

月子:私にだけ話してくれたというのは麻薬みたいな強力な力よね。職員がチームで対応することが大切だってことを実感したわ。

愛着障害脱抑制型の子どもへの対応を通して、職員が統一した対応をすることの大切さを学びました。

枠組みを持つということ、一貫した態度、人が変わっても対応が変わらないということは、子どもたちにとっての安心感になること、自己統制を養うことにつながることを学びました。

職員の個性を大事にしながらも基本的な対応を同じくすることは、ずっと心掛けています。

子どもたちは虐待などの心の傷を持っています。特に大きな傷、トラウマとか複雑性PTSDと言われるものを抱えている子どももいます。

まずは、安全な環境が必要になります。トラウマインフォームドケア(TIC)を学び、その子にとっての地雷は何かを観察し、安全な環境を考えるようにしています。

星子:それぞれ心に大きな傷を負っているのは想像できるけど、実際にどう対応したら良いかはいつも試行錯誤だね。

花子:いつもぷんぷん怒っていたり強引な要求をしたり、感情の出し方や表現が過激なので、タジタジしてしまうことも.....

星子:そうかと思うと急に小さな子どものように泣いたり部屋に引きこもったりもしたよね。

関係機関との連携の大切さと難しさ(2021年)

学校には、ホームのことを説明し、理解してもらうようにしました。現在の保護者としてできることやできないことがあり、その中で学校とのやり取りを密にするように努めました。

生活保護制度についてきちんと理解できるようにケースワーカーさんとこまめに連絡して、確認することをやってきました。

金銭管理をするときは、目で見てわかるように図を描いたり、おもちゃのお札を使ったり、その子に合った工夫を模索しています。

花子: 本人の進路をどう決めるのかというのは難しいわね。高校卒業資格は大切だと思いつつも、その子にとってどのような方向性が良いのか。本当の気持ちはどうなのか、周りに流されているだけなのか、本当に悩ましかったわ。

星子: 全日制高校や定時制高校に通う子が入居していた時は、学校との連絡に気を遣ったよね。行き渋りの時は毎日のように学校と様子を連絡し合ったので、行くか行かないかが職員のストレスにもなりかけたし……。

月子: せっかく通っている学校だから卒業させたいという思いがあったものね。通信制のスクーリングに行けるのかもずいぶん心配しちゃったわ。どれも本人の問題とわかっていても、ね。

星子: 単位の計算も大変だった。今どきの就職指導がどんなものかわからなかった。先生によって対応や温度差が違ったので困ったわ。

花子: 事情のある子は生活保護を受給していたから、収入申告などの生活保護制度のきまりを学んで、生活の組み立てを考えることを一緒にやったね。

海子: なかなか複雑なところもあって、私たちも常に勉強だね。

シェルターの受け入れ

2021年夏、ホームで初めてシェルターの受け入れをしました。

これまでの自立援助ホームの経験とはまた違う関わりが必要になってきて、自立援助ホームより短期間で次の一歩を見つけ出すことの大変さを子どもも職員も感じました。

就職、卒業、グループホーム ～旅だちのいろいろ(2022年)、そして…

花子: 初めて正社員として就職できた子がいて、心配だったけどしっかり自立できて本当によかったと思ってる。

星子: ホーム内ではいろいろやらかしてくれたけど、社会に出て本当に頑張っているわ。いいモデルになると思う。

花子: 万引きなどの非行をした子どもの付き添いで、家庭裁判所の調査に同行して、審判にも立会したわ。裁判所とかすべて初めての体験で、こっちもどきどきだった。保護観察所や保護司さんのところにも行ってね。

月子: ASDの診断を受けている子は、その行動の意味を理解するのに悩まされたわ。思いもかけない行動をするので、ケース検討会をしてやっと意味が分かったこともいっぱいあった。

海子: 言葉かけは考えたわね。見た目には分かった顔をするし、それなりのことも言うけれど、こっちが考えるように理解はしていなかったことが後でわかって、関わりを反省したことがいっぱいあったね。

花子: 入居してくる子は本当に個性がいろいろだから、その子その子に合った対応を工夫していくのは、これからも同じように続くと思ってる。

理事に弁護士がおり、司法福祉分野での経験がある職員がいるので、少年非行など司法が絡む手続きは熟知しており、対応はスムーズにできています。

障害福祉分野との連携、協力は以前から行っていましたが、ケースごとに更にきめ細やかに関わるようにしています。

いわゆる発達障害の特性のある子について、長く支援をしてきた専門家にケース検討会をお願いし、対応について学んでいます。

研修報告

全国自立援助ホーム協議会 北海道ブロック研修 2名参加

自立援助ホームの歴史や支援、知識を学び、利用者支援のスキル向上、知識習得を目指す研修でした。大きな刺激を受けることができました。

今回初めて参加させて頂いたブロック研修では、函館での開催だったため、青森からの参加者もいました。講師は、宮崎県からお越し頂いたウイング・オブ・ハートの串間範一さんとふくろうの家の高橋一正さんでした。

グループワークでは「それぞれのホームでの課題」は何か。ホームでのルール、関わり方・接し方、信頼関係などたくさん問題点を共有することができました。特に、職員の方向性は同じでなければいけない、共通意識を持つこと、ブレてはいけないこと。そうでなければ二次障害も起きてしまうのでは？というのがグループワークの皆が一致した意見でした。

最後に高橋さんから「共依存はしてはいけない。一人一人役割があり、それがチームワークになっている、対応の仕方はみんな違っていい。ただ安心感を抱かせる大人になる。そうなることで子どもたちもたくさん話をするようになる。大人との信頼関係が必要。」とお話をして下さいました。

今回、初めて道内の自立援助ホームの方々と意見交換、交流をさせて頂きました。職員にもたくさんのカラーがあっていい、子どもたちも同じでいろいろなカラーがあってそれでいい。いろいろなカラーがある中、一人一人の性格を理解し、皆で共有し、考え、話し合い、そして子ども達が安心できる居場所、環境を私達大人が作っていかなくてはならないのではないかと思うところでした。

今回このような北海道ブロック研修に参加させて頂きありがとうございました。とっても貴重な一日であつという間で足りないくらいでした。ありがとうございました。(職員:I)

旭川市内にある「NPO法人そーさぼ旭川」さんが主催する『大分・旭川 子ども若者支援交流会 ふかぼり篇～大分における実践から、「制度に分断されない子ども若者支援」を学ぶ～』というテーマの研修会が6回連続で行われました。

ビ・リーヴも共催させて頂きました。大分にある、NPO法人「おおいた子ども支援ネット」理事長の矢野さんの理念を学び、旭川に集まった各分野の支援者の皆さんと話し合いました。

これから市内のNPOなどの活動団体とのきずなも作っていきたいと思っています。

研修を終えて

社会的養護環境で育った子どもたちとは、「家庭内で育つことができない、または適切ではない。」として、児童養護施設や里親家庭で「育ちの保障」を受けている子どもたちのことです。「育ちの保障」を受けるわけですが、社会的養育関連制度では、原則「18歳」という壁が存在しています。

社会と向き合い、自律していくことの難しさや大人を信用できない心の傷が深く刻まれていることを感じます。

研修の中では聴くスキルを高めて、子どもたちに関わる大人たちの思いやりや愛情が伝わることを願いたいと思います。(職員:N)



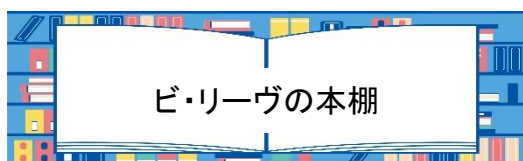
女性スタッフ研修報告



旧済生館本館
(山形)

令和5年7月、山形において女性スタッフ研修が行われました。一つは地域で支えていける仕組みを作ることに取り組んでいる事業所の「職」についてのお話でした。失敗してもいい、いつでもチャレンジできる居場所としてカフェレストランや会員制居酒屋等を立ち上げ運営していました。

もう一つは自立援助ホームでの「食」について、元ホーム長の食事に対する姿勢に、自分たちのできることを一生懸命丁寧にやっていくことが改めて大切だと感じました。「職」と「食」、生きていくために不可欠な繋がる支援を目指して努力していきたいと思っています。(職員:H)



『でんでんむしのかなしみ』という絵本は、『ごんぎつね』で知られる新美南吉さんが書いたものです。ある「でんでんむし」は自分の背中の殻の中に悲しみが詰まっていると気づきます。そこで、これは自分だけなのかと思い、いろいろなでんでんむしのところへ行って聞いてみます。

ところが、どのでんでんむしも背中の殻の中にも悲しみが詰まっていると話したのです。

そこで、自分はこの背中の殻の中の悲しみを背負っていかなければいけないと引き受けることにするのです。

私たちがそうですが、人生にはいろいろなことが起こります。望まないことも起こります。

評論家の芹沢俊介さんが使っていた「イノセンス」という概念があります。子どもたちは、時代、性別、体型、境遇などを選ぶことはできずに生まれてくる受動的な存在です。子どもたちが与えられたものを引き受けていこうとすると、イノセンス(無垢、自分には責任がないということ)が表出され、それを周りから肯定的に受け入れられることが必要になってくるのです。そうすることで、受動的に与えられたものを自分のものとして引き受けていくことができるようになるというのです。

ホームで出会う子どもたちも望まなくても抱えさせられたものを持っています。

変えられるものは変えていくように頑張るけれど、変えられないものは引き受けるしかない。そういう子どもたちと付き合うとき、いつか、自分の人生を引き受けて自分の足で歩いて行ってもらいたいと願うとき、そんな時にこの本が悲しみを味わい、未来に希望を見出していくような豊かなイメージを与えてくれるように思います。

(職員:S)

卒業生の様子 あれこれ

- ★Aさん：一人暮らしを続けています。「ブラック企業だ。」などとぼやきながらも仕事は続けています。
ある時、ごみの出し方で町内会の方から大家さんにお話があり、大家さんがごみの分別、不燃ごみの出し方を一緒にやってくれたそうです。地域の方のお手伝いが心にしみます。
- ★Bさん：グループホームの生活にも慣れ、仕事を続けています。ただ、仕事以外の楽しみや気分転換がほとんどなく、ストレス解消が建設的でない方向にいつてしまうことが心配の種です。
- ★Cさん：グループホームを出て一人暮らしを始めました。あまりにも大きな決断で、周囲は皆はらはらしています。さまざまな手続きなどについてはホームの職員が同行して支援をしています。一人暮らしの気楽さと寂しさに揺れていますが、見守っていききたいと思っています。

協賛・寄付を頂いた企業・個人の皆様

- ★ 株式会社セイコーマート 様
- ★ 株式会社ファーストテイリング（ユニクロ） 様
- ★ 株式会社HJA 代表取締役社長 鎌田博 様
- ★ 株式会社協和コンサルタント 代表取締役社長 上村正信 様
- ★ 菊地インテリア株式会社 菊地幸雄 様
- ★ うれしば保育サービス株式会社 様
- ★ 旭川南ロータリークラブ 様
- ★ ハウスギャバン株式会社 様
- ★ 新井 郁子 様
- ★ 匿名希望の方
- ★ 北海道日本ハムファイターズ株式会社 様
- ★ 社会福祉法人カリヨン子どもセンター 様
- ★ コストコホールセールジャパン 様
- ★ 若草プロジェクト 様
- ★ シェルターネットワークを通じて寄付を頂いた企業の皆さま

（前号以降の分を記載）

皆さま方のお気持ちに感謝し、事業を継続していきます。



令和5年度の会費納入、ご支援のお願い

子どもセンタービ・リーヴは年会費制となっておりますので、本通信と一緒に今年度分の会費の振込用紙を同封させていただきました。引き続き皆さまのご協力をお願いいたします。

なお、すでに今年度分をお支払いいただいた方に振込用紙が届くことがありましたら、失礼をお詫び申し上げます。

物価高騰の折、大変心苦しいのですが、引き続きご支援をいただければ、大変うれしく思います。



←当法人のホームページです！
法人の事業の様子などを載せています。
なるべく新しい話題を提供できるよう速やかに更新していくことを目指しています。

編集後記

ようやくマスク姿が少しずつ減り以前の活動が戻りつつあるように感じていますが、まだ身近にコロナ陽性者の報告があると、感染対策に翻弄される負担は続いています。ホーム内では入居者に振り回されそうになる精神的負担と向かい合い、安心して生活できる場になるよう今できることを考えて毎日過ごしています。

この通信を編集集中に全国の自立援助ホームを率いて下さった先人お二方の訃報がありました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（K）

事務局住所、FAXが変更になっています。



発行：NPO法人子どもセンタービ・リーヴ

住所 〒070-0842 旭川市大町2条1丁目6-125

☎ 090-1641-1089 FAX 0166-73-4827 Email be.live0523@gmail.com